

みうらトーク&トーク 第2弾

団 体 初声区長会

団体の紹介 住民自治と地域住民の生活
向上のため相互に協力し、
情報の交換を行うとともに
市行政の推進のため、協働
して三浦市の発展に貢献し
ている。



日 時 平成20年7月23日（水）20時22分から20時37分

場 所 初声市民センター講堂

参 加 者 市民 37名 市側 16名

テ ー マ 「初声地区のまちづくりについて」

内 容

概要を説明（市長）

地域の皆さんに拒まれる開発って、決していい話じゃないと思うんですね。例えば、今回の入江地区の大型開発は、大都市の大規模開発などに比べたら地域の皆さんにご理解いただいていると思っています。

地元区と事業者の間で協定を交わし、それについては市もきちんと関与するようにとの書面も頂戴しています。きちんとお答えできるような形でやっていきたいと思っています。いろいろ意見はあると思いますが、それを真摯に受けとめながら対応していきたいと思っています。これからも地域の皆さんには、何かありましたら役所のほうに言っていただければと思います。もちろん行政の組織なので、私が言ったからすべてできるという話ではないんですけれども、きちんと相談をしながらやりますので、お願いできればと思います。

そのほかに、まちづくり、開発に関連しての話というのは、当初この話が持ち上がったときは、下水道の敷設の問題だとか、道路の整備の問題だとか、たくさん懸案事項になっていることも一緒に解決できないかということを模索したんですね。下水道の問題は、都市計画税をい

ただいているにもかかわらず、三崎や初声地区は下水道が敷設されていませんので、都市計画税というのは下水道の予算に使っていますので、その恩恵を受けてない、でも税金を払っていただいているという方々に何とか早く下水道の事業を再開しないといけない。これは平成 23 年まで財政上の都合から凍結になってしまっていますので、これだけ大規模な開発があるときに一緒に下水道の工事ができないかということを環境部などと協議をしたのですけれども、開発のスピードが早く、事業者側と市側との考えが合致できなくて、開発区域内に処理施設を作るような形に落ち着いたんですけれども、市としては、例えば他の処理場に繋いでもらえないかと、あるいは金田の処理場に管を引っ張れないとか、いろいろなシミュレーションをしたんですが、結果的に時間がかかってしまうということで事業者と折り合いがつきませんでした。

西南部の下水道事業というのは約 378 億円かかる事業なので、市の財政が潤沢でやっていければ問題はないのですけれども、大変厳しい状況というのは変わらないものですから、いつ再開できるかというのをなるべく早く結論を出さなくてははいけない。そういったこともあったものですから、この入江の開発に関しても海側の問題をはじめ、いくつかの問題がはらんでいたんですけれども、地域の方々にご理解をいただいたということで市のほうも一生懸命やらさせていただきますので、ぜひご協力を引き続きお願いしたいと思います。

三戸・小網代の開発というのも、京浜急行さんや三戸地区の皆さんにご協力をいただきながら農地造成工事が今年度には完了し、これから新しい展開になっていきますが、発生土の処分事業が縦覧もされ、新聞折込にも入りました。なぜ発生土の処分事業を行うかという、あそこは 50 ヘクタールの土地区画整理事業として将来的なまちづくりがされるんですけれども、この事業の立ち上げにあたって、土地区画整理事業組合というのを作って、開発をするという 15 年ぐらいかかるんですが、まずは発生土の処分場事業を先行してやらせてもらって、次に区画整理の組合——もちろん、三戸の地権者の方が大多数なんですけれども、こういった方々にご理解をいただきながら、先に泥を埋めさせていただくような形で京急が事業主体になって始めた事業なんです。将来的なまちづくりのための布石として、発生土の処分事業が行われるというのが、計画の趣旨ですので、三戸地区の皆さんには説明に入っていると思いますが、初声全体の方にはたぶん知られていない話もあると思いますので、一応お話をさせていただきます。

三浦縦貫道路が来て、これから、この地区が三浦の、車などに対する入口になりますので、たぶん向こう 10 年ぐらいの間には、様変わりをしていくような状況になっていくと思っています。地域の皆さんのご協力をいただきながら、いいまちづくりをしていきたいと思っています。

すので——区長会の皆さんは区の代表として出ていらっしゃると思いますので、そういった意味ではたくさんの意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

意見交換

(市 民)

昨年、このトーク＆トークに初めて出席しまして、その席でお話させていただいたことが記憶に残っているのですが、三浦市は農業と観光と漁業と、3つの大きなテーマで将来像を描いていると思うんですけど——先般、現場を見に行っただんですが、1年前にお話した観光についての中で触れさせてもらいたいのですが、三浦市には城ヶ島、油壺、三浦海岸の大きな観光地がありますけれども、その中に関係して歴史というものが三浦市の将来像にあまり入っていない。インターネットでも調べましたが、歴史の関係についてはあまり触れられていないということで、前にも残念だと話をしたんですけど。それに関しまして1年前に話をしました観光案内板、これが1年前と比べてどうなっているかと思ひまして調べましたが、なんら変わっていないです。一つを取り上げてみますと、城ヶ島の北原白秋の碑のところが1年前と変わっていないです。今は車社会ですから、車で来たときにぱっと目につくような看板、市内の方10人に話をすると10人とも一緒のことを言うのですけれども、三浦市では観光の、その場に行かなければ、観光の案内板がない。手前にはないんですね、これは以前もお話したんですけども、そのときの回答が予算等をいろいろ検討して、前向きに検討していきたいというふうなお答えをいただいたんですけども、それから見てますがあまり変わってない。

それと、歴史というものはうそをつかないと思うんです。私的なことになりますけど、市長さんは、もと横浜銀行ということで、私の知り合いに同じ出身の方がいまして、その方は三浦一族を研究されていて、横浜銀行に財団があるようなんですが、そこで講演をしたいということで、三浦一族の史跡を見に来たんです。2、3個所を一緒に見に行っただんですが——その方が、もし市長さんが興味ありましたらば、三浦一族についてお話をしたいということなんです。先般、横須賀に行きましたら、三浦一族の三浦に関係する氏名の旗がかなり立っていたんです。これを見ますと、三浦市内では、三浦一族に関係するものが観光に関しても見当たらないんです。やはり、歴史はうそをつかないということで、観光の一つのテーマとして歴史というものを加えたらよろしいのではないかと思います。

昨年も話したのですけれど、ひとつ前向きに——すべてでなくていいんですが——検討していただくものではないかと思います。

もう1点ですが、飯森の総合公園がありますね、今、総合公園を使っていますけれど、まだ最終的な段階にいてないというお話を聞きましたけれど。ある方が、自分の子供の野球の大会があったんですね、それを見に行こうと思ったんですけど案内の看板がない。それで、わからなくて私のところに来たんですね。実際、私も初めて見に行っただんですけども、入口に看板がないんですね。総合公園の入口に小さい白い板が何かで三浦総合公園と書いてあるんですけども、総合公園の案内が通りにないんですね。

やはり、皆さんがわかるように、最低限、看板設置をお願いしたいと思います。

(市長)

歴史の話は、ご指摘いただいた以外にも、一般の方からもお話はいただいています。ホームページの歴史の項目が簡単すぎるとか、案内板が古すぎて字が見えないとか、たくさんいただいていて、観光課や教育委員会の生涯学習課のほうとも調整はやってないわけではなく、予算の関係で遅れてしまっているのは事実ですので、今日のご意見を踏まえて対応していきたいと思っております。

スポーツ公園のほうは、21年度完成の予定で公園の全体計画ができていまして、その中で入口の看板をつくるような——先にやればいいんじゃないかと言われると思うのですが——その中でやる予定で、今、管理棟の建設準備にかかっておりますので、一連の中でやっていきたいと思っております。出来上がってから文句を言われないようにしようということで、都市部などと調整していますので、そういったご意見などは早めにいただいていたほうが——サインなどの看板も目立たないと意味がありませんし、検討していきたいと思っております。

(市民)

実際にあそこの公園はサッカーとか野球で使っていられるので、ある程度見える、暫定の看板は必要かと思います。

(市長)

ちょっと考えさせていただきます。

(市職員)

この件については、いろいろな方からご意見をいただいています。先ほど市長も話しましたが、21年度までのまちづくり交付金の中できちんとやろうとしていますので、前向きに検討していきます。

(市長)

よろしいでしょうか。言い足りないという方はいらっしゃいませんか。もしありましたら、初声市民センターの館長が後ろにおりますので、何なりとお申し付けいただければと思います。

※ 公表については、了解を得ております。